

平成29年度 第1回 仙台市廃棄物対策審議会

議事要旨

日時：平成29年8月2日(水) 10:30～12:00

場所：仙台市役所本庁舎2階第三委員会室

I 次 第

1. 開会

2. 議事等

- (1) 平成28年度のごみ排出量等について
- (2) 平成29年度のごみ減量・分別施策について
- (3) 今後のごみ減量・分別の取り組みと方向性について
- (4) その他

3. 閉会

| | | |
|----------|----|----------------------|
| II 出席委員数 | 出席 | 18名（うち代理出席 1名（小沢委員）） |
| | 欠席 | 2名（遠藤委員及び塩谷委員） |

III 議事要旨

| | |
|---------------|---|
| 議長（吉岡敏明会長） | 議題に入る前に、進行に際し事務局から確認事項等はあるか。 |
| 廃棄物企画課長 | <p>本審議会の運営に関し、二点をご確認いただきたい。</p> <p>一点目は、会議の公開についてである。本審議会は公開を原則としており、本日の議事について非公開とする理由はないと思われるため、原則どおり公開としたいがいかがか。</p> <p>また、二点目は議事録についてである。本審議会の運営要領により、議事録には、会長と会長が指名する委員1名が署名することとしており、議事録の署名委員を選出する必要がある。なお、会議を公開とした場合には、議事録も公開となることを申し添える。</p> |
| 議長（吉岡敏明会長） | <p>まず一点目について、会議を公開としてよろしいか。</p> <p>（委員より、異議なしの声。）</p> |
| 議長（吉岡敏明会長） | それでは公開とする。 |
| 議長（吉岡敏明会長） | 次に二点目について、署名委員については名簿順に選出してよろしいか。なお、前回の署名委員は藤原委員であったため、今回は堀江委員に依頼してよろしいか。 |
| 議長（吉岡敏明会長） | （堀江俊男委員より了承の返答あり。他の委員から異議なしの声。） |
| 議長（吉岡敏明会長） | <p>堀江委員には、後日、署名をお願いする。</p> <p>それでは次第に沿って審議を進める。活発かつ円滑な審議をお願いする。</p> <p>はじめに、議事(1)「平成28年度のごみ排出量等について」及び議事(2)「平成29年度のごみ減量・分別施策について」、事務局より資料1及び2に基づいて説明をお願いする。</p> |
| 廃棄物企画課長 | 【資料1及び2について説明】 |
| 議長（吉岡敏明会長） | 委員の皆様よりご意見等はあるか。 |
| 齋藤孝三委員 | 事業系共同資源物回収施設設置補助について具体的な説明をお願いする。 |
| 事業ごみ減量課指導担当課長 | 複数の事業者が資源化を目的に共同で資源物の回収庫を設置する場合、購入及び設置に要する費用を助成する制度である。昨年度は仙台市花き市場と宮町商店街の2件の活用実績があった。今年度はまだ申請はないが、周知に努めている。 |
| 久田真委員 | 外国人住民が増加していることから、外国語表記等の対応についても配慮が必要だ。 |
| 家庭ごみ減量課長 | 外国人の学生が多い専門学校で、4月にごみの排出方法に関するオリエンテーションを実施した。4月以外にも実施できるよう、(公財)仙台観光国際協会と協力し検討している。 |

| | |
|---------------|--|
| | <p>また、「資源とごみの分け方・出し方」は英語・中国語・韓国語・ベトナム語版を作成しているが、専門学校等で、“文化の違いもあり、情報量が多いとすぐに実践できない”というご意見を伺ったので、簡易版を作ることも関係者と検討している。</p> |
| 内田美穂副会長 | <p>今年度から実施する搬入ごみ展開検査装置の導入により、検査回数や検体数はどれくらい増えるのか。</p> |
| 事業ごみ減量課指導担当課長 | <p>展開検査は事業ごみを対象に実施し、平成30年1月末までに市内全3工場に1台ずつ検査装置を設置する。1日あたり収集車両10台、年間3,840台の検査を目標としている。</p> |
| 内田美穂副会長 | <p>家庭ごみ組成調査については従来通り手作業で行うのか。</p> |
| 廃棄物企画課長 | <p>今年度は、環境省のモデル事業も活用し、家庭ごみに含まれる食品廃棄物の組成等について実態調査を行う予定である。調査結果を踏まえ、次年度以降の取り組みについても検討してまいりたい。</p> |
| 廃棄物事業部長 | <p>家庭ごみについては、従来から、全工場で毎月サンプリングによる組成調査を実施してきた。昨年度に生ごみの割合が大幅に減少したが、少子高齢化により中食が増えたことで、生ごみが減りプラスチック製容器包装が増えたことが要因の一つと考えられる。しかし、昨年度に急にそのような傾向になったとは考えにくいので、他にも考えられる要因があればご教示いただきたい。</p> <p>従来の組成調査と並行して環境省のモデル事業を活用した調査も実施し、集積所に排出された家庭ごみの中に消費期限が切れていない食品や調理くず等がどれほど含まれているかを調べ、食品廃棄物の減量に向けた事業展開を検討していく。</p> |
| 松八重一代委員 | <p>生ごみは割合と量の双方が減っているとの説明だ。通常、ごみ総量が減少した場合、食べる量が変わらず生ごみの排出量が同じならば割合は増えるはずだが、実際には生ごみの割合は減少している。このため、生ごみ以外のごみ量が増えたと推測される。</p> <p>事務局説明のとおり、少子高齢化や学生の増加等により単身者が増えると中食により容器包装の量も増えるが、もう一つ、ディスプレイを設置したマンションが相次いで新設されていることも要因として考えられる。そのことも調査してはどうか。</p> |
| 廃棄物事業部長 | <p>ご指摘のとおり、大規模マンションの建設が相次いでいることから、ディスプレイの影響も考えられる。調査の際には、新設マンションが多い地域における食品廃棄物の排出状況についても調べたい。併せて、従来からの工場での組成調査結果について経年比較し、考察したい。</p> |
| 海川一郎委員 | <p>全家庭ごみの何パーセントが組成調査のサンプルとなっているのか。経年比較するうえで、各年度のサンプル数についても資料に記載すべきではないか。</p> |
| 施設課長 | <p>毎月、各工場で数kg程度をサンプリングし組成調査を行っている。</p> |
| 議長（吉岡敏明会長） | <p>昨年度も従来と同様の方法で調査を行ったということか。</p> |

| | |
|------------|---|
| 施設課長 | そのとおりだ。 |
| 海川一郎委員 | 家庭ごみ約 18.5 万トンのうち何%を検体として抽出したのか記載が必要だ。毎年度の抽出数が同じならば、個別年度の内訳としても経年比較としても客観的に納得できる。 |
| 環境局長 | 調査方法は一貫しているため、経年比較という点では問題は無い。絶対数に対するサンプル数が適切かという点については、局内でも検討したい。 |
| 中野俊昭委員 | 平成 28 年度のリサイクル率は 29.3%と、前年度より減少している点が気になる。基本計画改定当初の想定と昨年度実績との間にどのような相違があったのかを検証し、どの施策に重点を置くかを定める必要がある。例えば、事業系共同資源物回収施設設置補助の昨年度実績は 2 件ということだが、リサイクル率を何%向上させるために何件を目標にするかを考えなければならない。 |
| 廃棄物事業部長 | 今年度の目標は 5 件であり、テナントビル等に対して広報し、達成を目指している。リサイクル率の減少に危機感を持っている。 リサイクル率減少の要因として、一つには集団資源回収や事業系紙類回収等の回収量が減少していることが挙げられる。集団資源回収の実施団体数はほぼ横ばいだが、民間商業施設が設置する回収庫など、ポイント還元サービスのある所に出す方が増えている可能性がある。また、全国的な傾向として、インターネットの普及やペーパーレス化により紙使用量自体が減少していることも要因と考えられる。紙類は貴重な資源物であり、引き続き無料排出できる機会を増やすなど分別の環境づくりを行ってまいりたい。 併せて、次の議事にも関連するが、現在本市ではリサイクルしていない剪定枝などの資源化可能なものについて、新たにリサイクルに取り組んでいくことが必要と考えている。既存の施策をさらに広めることと、新しい施策を展開することにより、リサイクル率 35%を目指していく。 |
| 議長（吉岡敏明会長） | 今のご質問に対する回答は議事(3)においてもご確認いただきたい。 |
| 齋藤孝三委員 | 民間商業施設における資源物回収量は、リサイクル率等の集計に含まれているのか。 |
| 廃棄物事業部長 | 事業者よりご報告いただき、基本的には集計に反映している。ただし、新規で回収を始める場合、市の把握が遅くなり集計が十分ではないこともある。 |
| 議長（吉岡敏明会長） | 情報の反映状況により誤差は出てくると考えられる。次の議題でもご議論いただきたい。 |
| 橋本啓一委員 | リサイクル率と同様に資源物量についても減少しており、目標値との差は 10,676 トンである。目標達成は可能か。 |
| 議長（吉岡敏明会長） | 今のご質問に関連し質問する。市は昨年度「WAKE UP (ワケアップ)！仙台」をキャッチコピーに重点的にごみ減量・分別キャンペーンを展開してきたが、基本計画の目標値に対し推移は順調なのか。 |
| 環境局長 | 目標達成に向け、5 年間で約 2 万トンのごみ総量の減量が必要だが、中でも特に我々が重視しているのが事業ごみの減量だ。 |

| | |
|------------|--|
| | <p>昨年度ご審議いただいた事業ごみ等処分手数料の改定は、受益者負担の適正化のほか、改定と並行して展開検査装置の設置や専任職員による指導体制構築等を図ることで、事業ごみの減量を推進するという目的もある。改定手数料の施行と、展開検査装置の通年稼働が平成 30 年度からとなるため、平成 30、31 年度の 2 年間で勝負の年だと考えている。</p> <p>平成 28 年度のごみ総量が前年度より約 5 千トン減少していることについて要因を分析する必要もあるが、手数料の改定と事業者が減量に取り組みやすい環境づくりにより 1 万トン以上の事業ごみ減量を見込んでおり、平成 30、31 年度に大幅に減量し目標を達成したい。</p> |
| 橋本啓一委員 | <p>市民・事業者との協働及び PDCA サイクルの構築によりごみの減量・分別を推進するということが、この 2 点を踏まえどのように基本計画を進捗管理していくのか。また、検証方法や効果についても説明してもらいたい。</p> |
| 廃棄物事業部長 | <p>市民・事業者との協働によるごみの減量・分別は基本計画の大きな柱の一つである。企画、実行、評価、改善という PDCA サイクルを市民・事業者と共に実施してまいりたい。</p> <p>取り組みの一例として、アメニティ・せんだい推進協議会に部会を作り、地域団体や事業者、大学関係者等とともにごみの減量・分別について検討を行っている。秋に実施するごみ減量キャラバンの検討も進めている。</p> <p>また、キャラバンについては、市民・事業者や区連合町内会長協議会からも、昨年度の振り返りも含めてご意見をいただいている状況だ。</p> |
| 橋本啓一委員 | <p>今後は、市民・事業者に対し、今まで以上に正確に課題等を示し意見を伺う必要がある。また、事業者がごみ減量に取り組みやすい環境づくりに積極的に取り組むという回答があったが、各事業についてより広く周知してもらいたい。</p> |
| 議長（吉岡敏明会長） | <p>ワケアップキャンパスの広報ツールとして Facebook や twitter を利用しているということだが、大学生からは学生の Facebook 利用率が低いという話を聞いている。若者向けには別の SNS 利用を検討してはどうか。</p> <p>それでは、他にご意見等はないようなので、議事(1)「平成 28 年度のごみ排出量等について」及び議事(2)「平成 29 年度のごみ減量・分別施策について」を終了する。</p> <p>続いて、議事(3)「今後のごみ減量・分別の取り組みと方向性について」に移る。事務局より資料 3 に基づき説明をお願いします。</p> |
| 廃棄物企画課長 | <p>【資料 3 について説明】</p> |
| 議長（吉岡敏明会長） | <p>資料 3 は、左の表がこれまで実施してきた施策と課題、中央の表が左の表に対応した平成 29 年度の実施施策案、右の表が平成 30 年度以降の実施施策ということだ。</p> <p>委員の皆様よりご意見等はあるか。</p> |
| 渡邊浩一委員 | <p>プラスチック製容器包装の軽量化が進む一方、食品の小分け販売の増加等により排出容量は増加しているという印象だ。ペットボトルも近年は重量が半減しており、同様の傾向が見られる。</p> <p>今後の基本計画策定にも関係するが、重量のみを基準にすると達成不可能な目標を設定する可能性もある。学会等の動きについても注視し基準を検討していく必要がある。</p> |

| | |
|-----------------|---|
| | <p>また、事業系の廃棄物に関して、市の焼却施設に搬入された産業廃棄物の混入について、市は産業廃棄物として処理するよう指導している。これは廃棄物処理法に基づいた指導と捉えているが、これら全てを産業廃棄物として処理した場合、一般廃棄物量は減るものの、著しく汚れたプラスチックについては産業廃棄物の処理施設でも受け取ってもらえず、処理に困るといのが実情である。</p> <p>併せ産廃ではないが、他の市町村の事例等を参考に実情にあった対応を検討いただきたい。民間事業者に対し、汚れた廃プラスチックも適正に処理できる施設の設置について働きかけてもらえれば、廃棄物処理業者としても検討する余地はある。</p> <p>廃棄物処理施設は安定した量が入ってこないと破たんしてしまうため、そのようなことを念頭に市と連携しリサイクルを推進していきたい。</p> |
| <p>廃棄物企画課長</p> | <p>容器包装の重量と容量に関して、缶・びん・ペットボトル等の回収でも、以前はびんが多かったが、最近では軽量のペットボトルの排出が増えている。生活ごみの収集運搬業務委託においても、重量だけではなく回収箱の使用数も検討しなければ正確な業務量を図れないというご意見もいただいている。今後も国等の動向について情報を収集しつつ適切なあり方を検討してまいりたい。</p> |
| <p>廃棄物事業部長</p> | <p>容器包装の容量の増加については認識しており、どのような測定方法であれば実施可能か、また適切であるかについては、平成 32 年度の次期基本計画策定に向けて検討したい。</p> |
| <p>事業ごみ減量課長</p> | <p>汚れた廃プラスチックについて、展開検査の際、事業系一般廃棄物に廃プラスチックの混入が散見されることから、収集運搬許可業者と連携し事業者の指導に当たってきた。</p> <p>ご指摘のとおり、汚れた廃プラスチックを搬入できる処理施設の確保が課題となっていることから、近郊も含め搬入可能な施設について聴き取りを行い、収集運搬許可業者と情報共有を図っているところだ。汚れの程度によっても受入可否が異なり、施設側でも実物を見た上で判断することもあるため、そのようなことについても情報共有し、今後も受け皿の確保を進めてまいりたい。</p> |
| <p>松八重一代委員</p> | <p>紙類の資源化について、今後は高齢化により紙おむつの排出量が増加していくと考えられる。昨年度の家庭ごみ組成調査では資源化できないものの割合が増えており、高齢化により紙おむつの排出量が増えていることも影響しているのではないかと想像している。紙おむつの処理方法は焼却しかないが、特に郊外では高齢化が進んでいることから、今後紙おむつの処理が課題になると考えられる。なお、紙おむつの成分はほとんどがプラスチックのため、紙類としての分類が適切かは検討されたい。</p> <p>また、分別の種類が多いと高齢者にとって負担となるかもしれないが、製品プラスチックを分別回収するのであれば、フライパン等の金属製品や小型家電についても定期回収を検討してはどうか。時々しか出ないごみについて、月に 1 回程度まとめて収集する日があれば市民は排出しやすいのではないかと。</p> |
| <p>廃棄物事業部長</p> | <p>紙おむつについては、高齢化が進み、家庭のほか高齢者施設や病院から出る紙おむつが増加している。紙おむつだけでいっぱいになった可燃ごみ袋はかなり重く、収集運搬許可業者もご苦労されていると思う。本市の処理方法は今のところ焼却のみだが、福岡市の民間事業者が紙おむつのリサイクル事業を開始したと聞いている。まずは先進事例の調査研究から始めたい。</p> |

| | |
|----------|---|
| 家庭ごみ減量課長 | <p>金属製品については、フライパン等は汚れを落とせば缶・びん・ペットボトル等の回収日に排出することができる。市民から問合せがあった場合にも、そのように回答している。</p> |
| 中野俊昭委員 | <p>山形市では雑がみの実例等を掲載した回収袋作成し無料配付している。雑がみの分別が問題ということなので、他都市事例の情報を収集し、良い事例を取り入れてもらいたい。</p> |
| 廃棄物事業部長 | <p>本市でも雑がみ回収袋を作成し広報している。また、昨年度にはワケアップキャンパスの学生の発案により「月刊紙袋」を作成した。これは、紙類の分別に関する記事を掲載した読み物であるとともに、読後は雑がみ袋として回収に出せる仕様となっている。雑がみは紙袋等に入れて縛って排出することとなっているが、若者は紙袋を提供する店を利用することが少ないという学生の意見から出来たものだ。他都市の事例も参考にしつつ、一層の啓発に励んでまいりたい。</p> |
| 菅野澄枝委員 | <p>平成 29 年度実施施策のうち、モッタイナイキッチン等の食品廃棄物減量施策は、女性や子供の貧困といった現代的課題に関連している。集団資源回収も少子化や地域の教育力といった課題と関連している。</p> <p>また、先ほどご意見のあった紙おむつについては、内容物を入れたまま捨ててしまうことのないよう、捨て方も含めて啓発に取り組んでももらいたい。</p> <p>生ごみの減量については、市や環境団体が家庭用たい肥化セットを配布しているのので、その効果をもっと PR してもらいたい。たい肥化の取り組みは地道ではあるが、実施している市民が自分の行動がごみ減量に寄与していると認識できれば取り組みは進むだろう。</p> |
| 家庭ごみ減量課長 | <p>たい肥化の PR について、生ごみの削減は重要な課題と考えているため、市民向け出前講座等について市政だより等を通じて広報してきた。平成 29 年度事業のモッタイナイキッチンにおいても、食材の無駄を出さないレシピの提案のほか、生ごみをたい肥化する方法についても取り上げる。たい肥化によるリサイクル方法や、作ったたい肥を朝市等で野菜と交換できるというところまで広報し、生ごみの削減に努めていく。</p> |
| 伊藤道子委員 | <p>近年、集団資源回収を目にする機会が減っている。地域差によるものかもしれないが、現状について説明をお願いします。また、集団資源回収と定期回収の回収量の割合はどのようになっているのか。集団資源回収量が減っているならば、対策を考えていかなければならないのではないかと。</p> |
| 家庭ごみ減量課長 | <p>集団資源回収について、実施団体数は微減傾向にある。内訳は、子供会は微減、町内会は微増、マンション管理組合はほぼ横ばいとなっている。回収量について、平成 26 年度は 22,904 トン、平成 27 は 21,707 トンとわずかに減少している。一方で拠点回収量については、平成 26 年度は 7,249 トン、平成 27 年度は 7,327 トンとわずかに増加している。集団資源回収を廃止した地域では、古紙等を市民センター等の拠点回収場所に持ち込んで引き続き回収にご協力いただいている場合もあれば、分別排出を止めてしまう場合もある。</p> <p>紙類は貴重な資源ではあるものの家庭ごみへの混入が多いため、集団資源回収や拠点回収、定期回収についてもっと広報してまいりたい。また、リサイクルできるものとできないものについても併せて市民への呼びかけを進めたい。</p> |

| | |
|-------------------|---|
| 議長（吉岡敏明会長） | 「月刊紙袋」制作には費用がかかる。紙袋を提供している市内店舗と連携し、雑がみ回収用の袋として使わせてもらうような体制をつくれぬか。また、川崎市のように、小型家電を含めた小型金属のリサイクルの仕組みについても検討されたい。生ごみについては、食品ロスを減らす視点からも検討していただきたい。 |
| 菅原博委員 | 事業系共同資源物回収施設設置補助の補助額はいくらか。 また、ワケアップキャンパスを単位制にすれば学生の積極的な参加を見込めるのではないか。 |
| 事業ごみ減量課指導担当課長 | 事業系共同資源物回収施設設置補助は上限 20 万円である。 |
| 議長（吉岡敏明会長） | 単位制については、事務局と大学関係者の双方に回答をお願いする。 |
| 家庭ごみ減量課長 | ワケアップキャンパスは、昨年度、エコフェスタへの出展やロックコンサートにおけるごみ分別アプリの広報を行った。また、「月刊紙袋」や大学構内で使用する資源物回収箱も作成した。今年度は新たに「ワケアップキャンパスマガジン」という Web マガジンを製作し、主に若者に向けて発信している。ごみだけではなく色々なものをワケてみようという切り口から広報している。 ごみについて若者の関心が低い中、ワケアップキャンパスには若者の視点から関わり方を考えていただいている。大学の先生からは、“きちんと説明すれば学生は分別できる。教えてくれる人が誰もいないため分別できていないので、行政が手を差し伸べて欲しい”という話も伺っており、今後も学生と協働して事業を進めてまいりたい。 |
| 議長（吉岡敏明会長） | 生ごみや金属類の回収についてご意見はあるか。 |
| 保科氏 (小沢晴司委員代理) | 環境省の調査を活用されるとのことで、応援したい。 資源化を進める方法として、リサイクルした先を見せることが大切である。「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」は、回収した小型家電の金属からオリンピック等のメダルを作るという、象徴的な見える化の事業だ。紙製品についても、そのようなことを考え検討を進めてもらいたい。 また、民間商業施設における資源回収では、ポイント還元などのサービスがインセンティブとなっている。仙台市が独自に回収に取り組む方法もあるが、民間事業者と連携するのも一つの手だ。その際には禁忌品が混入しないよう、回収ルートを増やしていただきたい。 |
| 議長（吉岡敏明会長） | 大学関係者のご意見も伺いたい。 |
| 松八重一代委員 | 来年度には、「食に関わる資源と環境」というテーマで1年生向けの基礎ゼミを開講する。食を提供するにはどれくらいの資源を必要とし、食べ残しや廃棄によりどれくらいの環境負荷がかかるのか議論する。現場型の講義は想定していなかったが、集中講義として実施することも検討してみたい。 |
| 内田美穂副会長 | 東北工業大学は文部科学省の地域連携に関する事業に採択され、毎週学部ごとに様々な講座を開講している。ごみの分別についても講座で学生に指導している。 また、ISO14001 認証を取得しており、入学後すぐ1年生全員にごみの出し方 |

| | |
|-------------------|--|
| <p>松八重一代委員</p> | <p>を指導している。「月刊紙袋」も活用している。</p> <p>広報についてだが、多くの大学生が利用しているツールは LINE と聞いている。市に LINE アカウントがあるかは不明だが、例えばワケルくんの LINE スタンプを特典に登録を促すなどの方法が考えられる。</p> |
| <p>議長（吉岡敏明会長）</p> | <p>年齢層に応じた広報方法についても検討されたい。その他ご意見はあるか。</p> |
| <p>多賀野修久委員</p> | <p>学校でどのようなごみの減量ができるか考えている。給食の牛乳パックが大量に廃棄されているが、保管場所や分別に要する時間の確保が課題となり学校だけで対応するのは難しい。より簡易に資源化できる方法があると良い。</p> |
| <p>佐藤貞子委員</p> | <p>昨年度、ごみ減量推進課より、商工会議所女性会に対しごみの分別方法等についての説明を受けた。大変参考になったという意見が出ていたので、商工会議所の他の部会でも分別方法等について説明してはどうか。</p> |
| <p>三田恵介委員</p> | <p>商店街では大量のごみが排出される。基本的な排出方法をより明確に示せば、商店街のごみ量も変わっていくのではないか。</p> |
| <p>議長（吉岡敏明会長）</p> | <p>ぜひ広報についても市に対応いただきたい。</p> <p>それでは他にご意見等はないようなので、議事(3)「今後のごみ減量・分別の取り組みと方向性について終了する。</p> <p>続いて、議事(4)「その他」について、委員の皆様よりご意見等はあるか。</p> <p>委員及び事務局よりご意見等はないようなので、議事(4)「その他」を終了する。</p> <p>それでは、事務局に進行をお返しする。審議の円滑な運営にご協力頂き感謝申し上げます。</p> |
| <p>司会</p> | <p>以上により、閉会する。</p> |